

# 探偵は、女の涙によわい

本シナリオは、キャスト達が劇中映画のキャストとなって撮影を行うという、一風変わった物だ。よく映画撮影に例えられるN○V Aの、プレイングノウハウのエッセンスが込められたシナリオだ。(掲載日：2015.6.11)

## プレアクト情報

## PRE-ACT INFO

### ■シナリオ基本情報

#### ▼作者

瀬戸俊雄 (twitter : @seto\_tosio)

#### ▼プレイヤー人数

3～4人

#### ▼想定プレイ時間

4～5時間

#### ▼シナリオタグ

映画撮影、メタ構造、メディア

### ●このシナリオについて

本シナリオは俳優のカブキを主役とした映画撮影シナリオであると同時に、映画撮影に例えられる「N○V Aというゲームの遊び方」の面白さ、エッセンスを劇中で描くという、メタ構造をしたシナリオである。

### ●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

#### ▼使用経験点

制限なし

#### ▼達成値制限

最大達成値を21とする

#### ▼使用ルール

クロニクルルール (年代は後述)

### ■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

制作費、1万プラチナム。N○V A軍全面協力。  
至上のキャストと最高のスタッフが織り成す感動巨編！

美しい女性はシーツで胸を隠しながら、  
横たわるフェイトの視線から目を背ける。  
片頬にひと筋の涙を流しながら……  
「さようなら。恋人ごっこはもう終わりなのよ。」

背徳の街……その夜景を眼下に見据えながら、  
女は復讐を、男は呪いの言刃を宣言する。  
「さあ、はじめよう。すべては氷の下に……」  
ひとつの殺人事件が引き金となって、N○V A軍  
までも巻き込んだ、最悪の一日が幕を揚げる！

フェイトは立ち向かう。真実の笑顔の為に……。

トーキョー-N○V A THE ACCELERATION  
『探偵は、女の涙によわい』

撮影現場で起きた殺人事件の真実を見つけて、  
少女の笑顔を取り戻せ！

## ■キャスト作成

ブレイクシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

## ●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

- ①『カブキ』：路上の歌姫（N/C オリジナル）(\*)
- ②『クグツ』：企業戦士（『TNX』 p87）
- ③『ニューロ』：ドローンマスター（『TOS』 p55）
- ④『カゲ』：夜の獵犬（N/C オリジナル）

## ●クロニクルルール (\*)

『TNX』時代の少し前、結城あやがチャンネル 99 のプロデューサーになる以前、悠木亜矢子という名前で女優をしていた時代を舞台とする。

## ●劇中劇

本シナリオは、アクトの中でキャストたちが映画の役を演じる、という入れ子構造のシナリオとなっている。『①カブキ』以外はエキストラとしての出演だが、『①カブキ』は主役である探偵役である。役名や探偵

としての造形、愛称などを考えるといふ。\*)

なお、『①カブキ』にフェイトのスタイルは必要ない。

## ●ゲストたちのハンドルについて

ゲストの名前の前の“ ”で囲まれた部分は、映画『探偵は、女の涙によわい』の中での配役の名前である。

## ●必要な神業

敵の神業のみでキャストがリタイアするのを防ぐために、全員で2枚以上の防御系神業が必要だ。

また、『チャイ』『完全偽装』『電脳神』には使用想定シーンが存在する。

## ●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、『社会：企業、メディア、警察』などである。

## ■キャスト間コネクション

キャスト間コネは、以下の順で取得する。

『①カブキ』→『②クグツ』→『③ニューロ』→『④カゲ』

→『①カブキ』

### 『①カブキ』サンプルキャスト

〈芸術：歌唱〉は〈芸術：演技〉へ変更すること。

### クロニクルルールの補足

使用するデータなどには一切制限を設けない。特に年齢の整合性などを考える必要もない。

### 『①カブキ』の役名について

特に思い浮かばなかった場合、役名は「荻マコト」とすること。

なお、『①カブキ』は男優でなくても構わない。主役に急速に抜擢されたカブキであり、普段の職業などはプレイヤーの自由とする。

### キャストが所持している武器

映画の撮影道具として登録されている（あるいは小道具に偽装されている）とし、登場判定へのマイナス修正は無視する。

### 用語解説：オールアップ

映画が完成した事を意味する。

# アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。  
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

- ①『カブキ』：映画の主人公の探偵役である
- ②『クグツ』：千早重工後方処理課、あるいは CME 所属
- ③『ニューロ』：N◎VA 軍所属の諜報員
- ④『カゲ』：稲垣機関の工作員

## ①推奨スタイル：カブキ

SCENARIO HANDOUT

コネ：『蜜（=ヴァイオレット）』中村黒子

推奨スート：感情

キミは映画『探偵は、女の涙によわい』の主役である探偵役に抜擢されたカブキだ！

しかし、その映画撮影中に殺人事件が起きた。ショックを受けて涙を流している共演女優の中村黒子の笑顔を取り戻すため、キミは殺人犯の調査に乗り出した。

※映画中の役：主役の探偵（探偵としての造形はプレイヤーの自由だ）

【PS：真犯人を突き止める】

## ②推奨スタイル：クグツ

SCENARIO HANDOUT

コネ：ミミ・坂根

推奨スート：外界

千早製作の映画撮影のストップは、社の損害になる。映画撮影現場で起きた殺人事件は、SSSにより人身事故として処理をさせた。だが犯人がまだ見つからない以上、他の共演者の身に何が起るか分からない。そこでキミは、映画監督ミミ・坂根の協力の下、エキストラとして撮影現場に紛れ込んだ。

※映画中の役：エキストラ軍人B（軍情報指令局司令官の部下）

【PS：映画撮影を完成させる】

## ③推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：『J2』和泉紗季

推奨スート：理性

キミは映画協力する中隊に紛れこんで、別命任務を帯びている N◎VA 軍人である。その任務とは、テロリスト『氷の静謐』と接点があると言われていた、尾上演の監視だった。しかし彼は何者かによって亡き者にされた。キミはこの事件の調査に取り掛かった。

※映画中の役：軍情報局司令官（エキストラ軍人Bの上官）

【PS：真教浄化派を排除する】

## ④推奨スタイル：カゲ

SCENARIO HANDOUT

コネ：『グレース・間口』悠木亜矢子

推奨スート：外界

キミは映画のエキストラ陣に紛れ込んでいる稲垣機関の工作員だ。稲垣司政官の特命により、探偵助手役である悠木亜矢子に悪い虫が付かないように、出演者にまぎれて、キミはカゲながら護衛しているのだ。

※映画中の役：エキストラ暗殺者A

【PS：オールアップを実現させる】

## RL用テキスト

TXT 4 RULER

## ■ストーリー

かつてN◎VA軍が起こしたクーデターで娘を失った名俳優・尾上演はN◎VA軍への恨みを募らせ、テロリスト“灰の”アドの甘言に乗り、テロ組織“氷の静謐”の支援者になっていた。しかし、死んだと思われた実の娘である中村黒子は一命を取り留めており、母親の死を乗り越えながらも成長し、女優であるという事実以外には名前も顔も知らない父を探すために、女優としてデビューしていた。それを知った尾上は“氷の静謐”との縁を切ろうとし、結果、映画『探偵は、女の涙によわい』の撮影の最中に殺されてしまう。

テロリストを追う者たちは犯人を割り出すが……それさえも、中村黒子に罪を擦り付けるといふ、非道な犯罪者の罠だった。テロリストの目的は、暴力衝動ブ

ログラムを撒き散らし、発動キーワードの台詞が盛り込んだ映画予告を通じて、N◎VAの街に混乱の暴動を起こさせるのことだったのだ。

父親殺しの汚名を着せられた中村黒子と、テロに脅かされようとしているN◎VAを救い、映画撮影を無事に終了させることができれば、本シナリオは終了となる。

## ■クライマックスの条件

事件の真犯人である“灰の”アドを特定し、敵勢力が使用した神業、《不可触》アンタッチャブルと《暴露》エクスポーズに対処したらクライマックスとなる。



## RL用トピック：アクト運営のポイント

## ●アンダーワーク

以下の点に注意して行うとよい。

## ▼ハンドアウトの配布

事前に各プレイヤーの希望を聞き、作成するキャストの想定を事前に質問するといふ。

なるべくプレイヤーの希望を考慮しつつ、アクトの主人公である『①カブキ』を優先的に選ぶこと。ヒロインである中村黒子の訴えを受けて自発的に彼女を助けようとする、人情味のあるキャストが好ましい。

## ▼キャストの作成・提示

各プレイヤーに対して、キャストに関する掘り下げを行うために以下の質問を行うと、RLがアクトを運営するイメージが湧きやすいだろう。

- ・『①カブキ』…キャストのカブキとしての代表作は何か？（中村黒子が彼のファンという設定を生かすため。映像作品でなくてもよい）演じるフェイト役のイメージ、映画撮影への意気込みなども。
- ・『②クグツ』…監督ミミ・坂根に対する感情や付き合い方のスタンス。（企業としての立場など）
- ・『③ニューロ』…テロリスト・真教浄化派に対しての感情、日本人軍としてN◎VA市民をどのように思っているのか。
- ・『④カゲ』…稲垣光平に対する感情（稲垣光平のキャラクターをコミカルな演出として利用しているため、それを受け入れられるか）

RLは必ず、キャストのかっこいい部分、魅力的な部分を褒めるようにすること。RLからの質問に返答してくれたプレイヤーに対して、きちんとお礼を述べること。

もしキャストの設定が、シナリオ進行に支障をきたすものであったりした場合は、まずはそのキャストの美点を褒めた上で、必要に応じてシナリオ展開を公開し、キャストの設定変更や再作成などを促すこと。素直に「シナリオの修正が難しいので、キャストの再提示をお願いします」と、伝えてもよい。

## ●ブリアクト

以下の点に注意して行うと良い。

## ▼プレイヤーの自己紹介

RLから挨拶を行うと良い。プレイヤーどうしが親密になればなるほど、アクトを円滑に行いやすくなります。

## ▼各キャストの自己紹介

プレイヤーが褒められると嬉しいであろうキャストの設定を、質問して探っておくと良い。本アクトでは映画撮影シーンにおいて、監督ミミ・坂根が各キャストを褒める、という演出がある。この演出への準備をしておくのだ。褒められて嬉しいだろうポイントを探るのが苦手な場合は、キャスト紹介でプレイヤーが重点的に説明した所に注目しておくといふだろう。

## ●メインアクト

本シナリオの運営・演出方針を以下に示す。

・“ヴァイオレット”と“薑”は格好良い演出を心がけ、反して中村黒子は可愛くモジモジした仕草などの演出を心がけること。このギャップが中村黒子というゲストの魅力だ。彼女のカブキとしての本質を演出するシーンが、『●イベント8：ハードボイルド』にある。事前に目を通し、彼女のキャラクター性を把握しておくこと。

・本シナリオにおいて、『①カブキ』の神業《チャイ》は2つの使用想定シーンがある。『●イベント4』と『●イベント8』がそれに該当する。これらの《チャイ》の演出は本シナリオ最大の見せ場であるため、事前によくイメージをふくらませておくこと。

・映画撮影シーンで、あえて演技を失敗した演出をしたいというプレイヤーもいるかもしれない。その場合は失敗した演出のあと、助監のアドが「カット！では、テイク2いきます」とセリフを差し込み、その後判定・成功演出を行わせるといふ。

## ●ポストアクト

映画らしく、印象に残った1シーンを添えて、それぞれのキャストの素晴らしい演出を褒めるとよい。

# オープニングフェイズ

## OPENING PHASE

### ●オープニング1：足長おじさん

シーンプレイヤー：『④カゲ』

登場：不可

#### ◆解説

描写1ではアサクサにある撮影現場で、エキストラ役として現場に入っている『④カゲ』に対して、護衛対象である悠木亜矢子が挨拶をしにくる。彼女の人柄の良さをアピールすると良い。その挨拶と、軽い会話を終えたら、描写2へ。

描写2は過去回想で、場所は稲垣機関の会議室。映像回線で稲垣司政官から、悠木亜矢子を“個人的な理由”で、護衛するよう任務が下る。(1) 命令を受けたら、報酬点を3点渡して、結末へ。

#### ◆描写1

アサクサ N◎VA 映画撮影所。大道具のスタッフによって組まれた探偵事務所や、室内に設置された3Dプロジェクター、天候設備が整っている野外撮影所。

そこに、パイプのドット柄ワンピースの探偵助手衣装に身を包んだ、30代半ばとは到底思えない美貌をメガネで隠した、女優・悠木亜矢子が入ってきた。どうやら、役作りは完璧のようだ。

#### ▼セリフ：助監のアド

「紹介させてください。本日クランクインの悠木亜矢子さんです」

「そして、エキストラの『④カゲ』さんです」

#### ▼セリフ：悠木亜矢子

「おはようございます。これから宜しくお願いしますね」

「よい作品を作っていきましょうね」

#### ◆描写2

深夜、稲垣機関の会議室。映像回線では、イナガキ・ロワイアル（司政官ご自慢のお酒）のボトルを片手に掴んだまま、かなり飲んでいるであろう稲垣光平からの命令が下る。

内容は、女優・悠木亜矢子の護衛だ。

#### ▼セリフ：稲垣光平

「俺だ！ 今度の映画出演が決定した、あやちゃんの護衛をしる。今すぐだ！」

「俺様のアイドル、あやちゃんに変な虫がつかないように、監視……いやいや、護衛しろ！」

#### ◆結末

ワインをグビグビ飲んだ後、稲垣光平はさらに無茶な要求をしてきた。

「それとな、あやちゃんの映画を成功させろよ～」

### ●オープニング2：全面協力の真意

シーンプレイヤー：『③ニューロ』

登場：不可

#### ◆解説

描写1は、N◎VA 軍が全面協力して映画撮影をしているシーンである。撮影しているのは「軍の情報部が街にテロリストが潜入している情報を入手した」というシーンだ。『③ニューロ』は軍情報部長官というエキストラ役を演じる事になる。適宜『③ニューロ』が演出を行ったら、描写2へ。

描写2は過去回想で、尾上演とテロリスト真教浄化派との関係の調査を、和泉紗季から命令される。命令を受けたら報酬点を3点渡して、結末へ。

#### ◆描写1

「N◎VA 軍が全面協力して映画撮影！」という謳い文句を実現させるべく、キミは……トーキョー N◎VA 治安維持軍と、撮影スタッフとの連携をスムーズに行うべく、奮闘している。

さらに、軍情報部の長官……というエキストラも演じながらだ！！

#### ▼セリフ：エキストラ軍人

「長官！ テロリストが、わが街に潜入しているという情報を入手しました！」

「指示をお願いします。長官！」

#### ◆描写2

映画の撮影協力は、軍人であるキミの本分ではない……本当の目的は別にある。

撮影が始まる数日前、キミはN◎VA 軍基地のミーティングルームに居た。

#### ▼セリフ：和泉紗季

「このホロに写っているのは、俳優の尾上演。この俳優が出演する映画は素敵な物ばかりなのですが……テロリストへの協力している可能性が、かぎりなく灰色なのですね」

「『③ニューロ』、我が軍が協力する撮影クルーに紛れ込んで、彼の身辺調査を行ってください」

#### ◆結末

キミは革命を受け、部屋を退出した。

#### 稲垣司政官の命令

N◎VAの歴史に詳しい人には有名な話だが、稲垣司政官はかつて「レトロアイドル」と呼ばれた結城あや（現在の悠木亜矢子）の熱狂的なファンだった。



## ●オープニング3：愛と哀

シーンプレイヤー：『①カブキ』

登場：不可

## ◆解説

描写1は、重役の中村黒子と主人公探偵役の『①カブキ』の撮影シーンだ。内容は「身を隠すために重を演じていたヒロイン（＝復讐のテロリスト・ヴァイオレット）が、本気で愛してしまった探偵との未練を絶つ為のシーン」である。

探偵のことは愛称（※シナリオ中では『①フェイト』と表記する）で呼び、艶のある大人な女性のロールプレイを心がけると良い。この撮影シーンの会話の途中で、神業《ファイト！》を使用する。神業の指定はプレイヤーに任せてよい。

描写2は、中村黒子と『①カブキ』の役外での会話シーンだ。黒子は少女らしいロールプレイを心がけると良い（モジモジと話す感じだ）。会話を終えたら描写3へ。

描写3は、尾上演殺害事件が起きるシーン。対外的に事件は自殺として処理されるが、尾上を役者として尊敬していた黒子は涙し、彼が自殺などするはずがないと語る。彼女を慰め、『①カブキ』が犯人探しを決意したら、結末へ。\*)

## ◆描写1

重はワンピースを脱ぎ捨てる。まるで明日、世界が終わるかのように……情熱的に、キミの唇や……身体を求めてきた。

「愛してる……『①フェイト』！」

恋人同士の愛の交歓の後、重はシートで胸を覆いながらベット脇に座り込む。

## ▼セリフ：重（＝ヴァイオレット）

「ねえ、『①フェイト』はどうして、探偵になろうとしたの？」

「貴方らしいわ。『①フェイト』なら、誰よりも素晴らしい探偵になれるわ。私が保証する」※《ファイト！》を使用

「私、本当は、役者になりたかったの。もう、諦めてしまったのだけどね……でも後悔はしていないわ」（眩く）さようなら。恋人ごっこは、もう終わりなのよ」

## ◆描写2

記録係は部屋の小道具、大道具のすべての配置を、サイバーアイの内蔵カメラで記録していく。セットデザイナーは、隣接した探偵事務所の設営に取りかかり、照明監督は電腦操作で照明調整を始める。

各スタッフが協力し、一つの映像作品を作り出す。そんな撮影の合間に、次の撮影衣装を着込んだ中村黒子がキミに話しかけてきた。

## ▼セリフ：中村黒子

「お疲れ様です、『①カブキ』さん。飲み物をどうぞ」

「あ、あの……『①カブキ』さん作品を見ました……ファ

ンです！ だから、あの……サインを買っても、良いですか？」

「いっしょに映画撮影が出来て、嬉しいです」（顔を紅潮させる）

## ◆描写3

順調に撮影スケジュールが消化されていったある日のこと。

ドン！！

俳優の尾上演が5階から飛び降りる事件が発生したのだ。駆けつけたSSSは、自殺と断定して引き上げていたが、現場は重苦しい悲痛な雰囲気か漂っていた。

そんな中、花束をそっと添えて着物の袖を涙で濡らす少女の姿を見つけ、キミは声をかけた。

## ▼セリフ：中村黒子

「尾上さんは、とても尊敬する役者さんで、ヴァイオレットの役作りに親切に助言してくれて……」

「ごめんなさい。涙が止まらないんです……。誰よりもプロ意識が高かったです……だから、絶対、自殺なんかじゃ無いはずなんです！」

「犯人を見つけない……心がそう叫んでいるんです」

## ◆結末

彼女のホクロが涙に濡れる。

キミは、女の涙によわい。

## ●オープニング4：N◎VA映画撮影所

シーンプレイヤー：『②クグツ』

登場：不可

## ◆解説

殺人事件後のシーンである。『②クグツ』は上司である小上紫乃から命令を受け、SSSの捜査を中止させ、今回の事件を事故として処理した後に、撮影現場にやって来ている。千早グループの目的は、撮影中の殺人という悪いイメージを隠して、巨額の投資が行われている映画を完成させることだ。『②クグツ』には最初に費用として報酬点3点を渡しておくこと。

撮影現場を訪れた『②クグツ』に、女監督であるミミ・坂根が撮影現場などの解説をする。彼女は協力的である事を演出する事（情熱的なロールを心がけるとよい）。適宜会話をしたら結末へ。

## ◆描写

数多くの撮影スタジオ・設備と機材が揃う、アサクサ映画撮影所。この敷地内に設置された3Dプロジェクターを駆使することによって、SFからファンタジーまで、どのようなジャンルでも撮影が可能となっている。

そんな現場で起きた、殺人事件……キミはそれを事故として処理をさせた。撮影中の殺人などという悪しきイメージがつくと、巨額の資金をかけた映画

## オープニング3 描写3

尾上を殺した犯人は実のところ、中村黒子自身である。ただし、事件の黒幕による《完全偽装》の影響で黒子は事件の記憶を忘れていた。

尾上の死が自殺や事故でない事を、彼女は自分自身の手の感触とカブキとしての直感が心に結びついて、涙が溢れて理由なき確信を得ているのである。

なお、この情報はシナリオを進めていくと明らかになるため、ここで解説はしないこと。

がバアになってしまう。

撮影を最後まで成功させること、それがキミの今回の任務。同時に、殺人事件の犯人を追うこともまた、キミの仕事だ。

#### ▼セリフ：ミミ・坂根

「はじめまして、監督のミミ・坂根です」

「今回の作品は、スタッフ、役者全員が、脚本に惚れ込んでいます」

「こんな事件を招いてしまったのは、すべては私、監督の責任です。私はどうなってもいい。別の監督に交代になってしまってもいいですから、どうか、この素晴らしい映画撮影を、中止にしないでください」

#### ◆結末

キミは、映画監督ミミ・坂根の協力の下、エキストラとして撮影現場に紛れ込んだ。

撮影カメラにカチンコが映る。そこに書かれた文字は……。

ここで、シナリオタイトルを読み上げ、シーンを終了すること。

No Image

#### ■中村 黒子

カプキ●●、ミストレス、マネキン

#### ▼設定

母親をN◎VA軍のクーデター事件で亡くす。その後は孤児として苦勞をし、今は顔も素性も知らない父親を探すために銀幕デビューした。作品の役柄に合った様々な義体操る、若手女優。マスケンヴァルを使用せずに、演じ分けることが出来、さらに人に共感を与える天才。昨年はN◎VA映画祭新人賞を受賞している。黒髪ロングを櫛でまとめ、普段から桜色の着物を着ている。年齢10～12歳ぐらい。涙ホクロあり。

#### ▼神業

《フリーズ!》をイベントで使用

No Image

#### ■尾上 演

エキストラ

#### ▼設定

災厄前から続く俳優一家の名役者であり、代表作品は「ニューロ血風録」「日本Detonation 沈没」などがある。特に苦悩に満ちた演技を得意とする役者である。家同士が決めた、許婚と結婚している。だが本当に愛したのは、中村黒子の母親で、クーデター事件に巻き込まれなければ、愛の逃避行をしていたはずだった。

No Image

#### ■ミミ・坂根

ミストレス=ミストレス=ミストレス●●

#### ▼設定

今回撮影している映画「探偵は、女の涙によわい」の女監督。撮影中は、服装および髪形や化粧など、一切気にせずに、四六時中映画撮影のことに没頭して、情熱を注ぐ。特に俳優のインスピレーションを大切に、脚色をよく変える事で有名である。さらに、隠された才能を見つけた、長所を褒めて俳優の才能を伸ばす監督なので、特に新人女優に惚れられやすい。その要因には、彼女がマニッシュ系のビジュアルだからかもしれないが……隠れ美乳の持ち主で、ショートヘアの20代前半の女性である。

## リサーチフェイズ

## RESEARCH PHASE

## ●イベント1：台本読み

条件：リサーチフェイズの最初のシーン

シーンプレイヤー：『①カブキ』

登場：『②クグツ』以外は全員登場

## ◆解説

殺人事件前の過去シーンである。

映画に携わるすべてのゲスト（敵も含む）、キャスト、およびエキストラの自己紹介をするシーンだ。

尾上演が出演するシーンはここだけなので、淡いロールプレイを心がけると良いだろう。

## ◆描写

映画『探偵は、女の涙によわい』の最初の顔合わせを兼ねた、全体ミーティングが今から始まる。

何度も映画スクリーンでみた、黒の皮ジャケットが似合う有名俳優の尾上演から、桜色の着物を着ている新人子役、アイドルから女優へ転身した悠木亜矢子、主人公探偵役の『①カブキ』などの顔が並ぶ。

監督や映画を支えるスタッフおよび協力者が一同に会して、まずは自己紹介から始まった。

## ▼セリフ：尾上演

「尾上演です。テロリストの親玉である“アイアンブルー”を演じる事になりました。最高の演技で、皆さんと楽しい時間を過ごしていきたいと思っています」

## ▼セリフ：悠木亜矢子

「探偵助手役“グレース・間口”を演じることになった悠木亜矢子です。よろしくお願いします」（笑顔で）

## ▼セリフ：中村黒子

「探偵の恋人“董”役とテロリスト……“ヴァイオレット”をやる事になった、中村黒子です。まだ未熟者ですが、一生懸命がんばります」（顔を真っ赤にする）

## ※この後に『①カブキ』の自己紹介

## ▼セリフ：李拳骨（※敵ゲスト）

「古今東西の俳優を演じ分けることが出来る、マスケンヴァル・アクション（※）の李拳骨です。みなさんの俳優・配役の人格データを駆使して、スタント・アクションを担当します」

## ※この後に『③ニューロ』『④カゲ』の自己紹介

## ▼セリフ：助監アド（※敵ゲスト）

「助監です。雑務やみなさんのスケジュール管理を行います。困った事があったら言ってください」

## ▼セリフ：ミミ・坂根

「この作品のメガホンを取る、監督のミミ・坂根です。世界が少しでも幸せになれる映画にしていきたいと思っています。全力で映画撮影を楽しみましょう」

## ◆結末

中村黒子は、耳たぶまで真っ赤にしながら『①カブキ』に頭を下げる。

「あの……濡れ場シーン、初めてなので……よろしくお願いします」

消え入るような小声で、そう囁いた。

## マスケンヴァル・アクション

人格データ“マスケンヴァル”（ITNX] p240）を駆使して演技を行うスタイル。



## シーン撮影判定

本シナリオでは、映画撮影中に起きた殺人事件の真相を追うという目的の他にもう一つ、「映画撮影を成功させる」という目的がある。この2つ目の目的の達成度を決定するのが、[シーン撮影判定]だ。

[シーン撮影判定]のルールに関しては、情報項目【映画『探偵は、女の涙によわい』】の情報が開示された時点で説明を行うこと。ルールは以下のとおりだ。

## ●シーン撮影判定を行うタイミング

[シーン撮影判定]のタイミングは、シナリオ中に合計4回存在する。

[シーン撮影判定]を行えるのはそのシーンのシーンプレイヤーであるキャストのみだ。

## ●判定の方法

[シーン撮影判定]では、撮影するシーンの内容に合わせてRLが指定した一般技能（これはアクション技能として扱う）を用いて判定を行う。

演出ができ、RLが認めるのであれば他の一般技能を組み合わせてもよい。この際、組み合わせた技能の達成値を上昇させるスタイル技能や装備の効果も受けられるとする。（ただしアクション技能を組み合わせることはできない）

## ●達成値について

[シーン撮影判定]の達成値は「どれだけ素晴らしい演技が出来たか」を表すものだ。[ITNX] p114の目標値チャートに照らし合わせ、その演技の達成度が決定される。（達成値16ならプロも唸るほどの演技、ということだ）

また、この達成値はシナリオ中累積され、全ての[シーン撮影判定]の達成値の合計が、映画『探偵は、女の涙によわい』の完成度を決定することになる。

達成値の合計が80を超えれば、ひとまず映画撮影は成功となる。むしろ、達成値の合計が高ければ高いほど、その映画の出来は素晴らしいものになる。

## ●神業の使用

[シーン撮影判定]の最中に神業を使用した場合、その神業の演出がシーンの内容に沿うものであれば、判定の達成値に+21することが出来る。1回の[シーン撮影判定]における神業の使用回数に制限はない。

## ●SPSについて

以下の内容はクライマックスフェイズの[シーン撮影判定]の前に説明する。本シナリオのSPSは「N◎VAアカデミー賞を受賞する」である。SPSで得られる追加の経験点と合計達成値の対応は以下のとおりとなる。

100：N◎VAアカデミー賞作品賞ノミネート：経験点2点

120：N◎VAアカデミー賞作品賞受賞：経験点3点

140：更に『①カブキ』が主演賞受賞：経験点4点

150：主演賞、助演賞、監督賞、脚本賞など総まとめ：経験点5点

## ●イベント2：エキストラ

条件：【探偵は、女の涙によわい】の情報をすべて開示した

シーンプレイヤー：『②クグツ』

登場：〈社会：企業〉／SR：イエロー

## ◆解説

『②クグツ』がN◎VA軍人のエキストラ(『③ニューロ』の部下としての役どころだ)として登場する撮影現場のシーン。

〔シーン撮影判定〕を行う。シーンの目的に即したロールプレイ(無言演出も含む)を行ったら、『②クグツ』に〈電腦〉もしくは〈交渉〉の判定を行わせること。RLは判定の達成値をアクトシートの余白に記入しておくこと。〔シーン撮影判定〕が終わったら、描写2へ。

描写2は、撮影終了直後の休憩シーンである。監督のミミ・坂根が、『②クグツ』の演技を褒め、そのロールを反映させるために、脚本の一部書き換えを助督に指示する①

## ◆描写1

「No.120……テロリストのハッキングを受け、情報局長官である『③ニューロ』に報告する下士官『②クグツ』のシーン……スタート！」

カチンコ！！

世界各国のテロリストの情報が集まり、迅速かつ的確な最新情報を各担当部署へ発信する、軍情報部の中央集積センター司令部。

今まさに何者かによってハッキングを受け、サイバーガード班が電腦戦を繰り広げている最中だ！

## ▼セリフ：エキストラ軍人

「トリックルーム起動！ 対象αを捕獲できません！」  
(軍人が倒れる)

## ◆描写2

「カット！ いまから、10分の休憩に入ります」

N◎VA軍の全面協力で撮影に利用された、移動要塞・大和武尊改の指揮管制ルームから、多くのエキストラ達が休憩タイムに入る。

## ▼セリフ：ミミ・坂根

「まさかこんな形で、シーン演出をまとめるなんて。私の予想以上よ！ ……素敵だったわ」

「ほんとうに演技は初めて？ だって、すごく雰囲気良かったから」

(『③ニューロ』が登場した場合)「さすが本職ね！

もう、その一言に尽きるわ」

## ◆結末

「脚本よりも、貴方の演出のほうが素晴らしかった！ ……助督、台本を訂正しておいて」

現場の熱は冷めることなく……演じる人と撮影する人たちの、映画への情熱が加速していく！

## ●イベント3：コンティニューティ

条件：「●イベント2：エキストラ」の直後

シーンプレイヤー：『③ニューロ』

登場：〈社会：企業、テクノロジー〉／SR：イエロー

## ◆解説

「●イベント2：エキストラ」での撮影最中に、実は本当にハッキングが行われており、N◎VA軍人達が電腦攻撃を受けていた、ということが明らかになるシーン。時系列は先のシーンと同時で、その舞台裏を映す、という感じだ。キャストの登場判定が済んだら戦闘に移行すること。(前のシーンの演出と整合性が取れれば、『②クグツ』も戦闘に参加して構わない)

## ◆描写

「対象αを捕獲できません！」

悲鳴を上げた軍人が、倒れる。

撮影最中の舞台裏で、N◎VA軍人達はテロリストの電腦攻撃を、今まさに受けている最中だった。

## ▼セリフ：攻性ウィルスα

「攻撃対象を捕捉。ターゲット01、N◎VA軍人『③ニューロ』。ターゲット02、司政官の愛玩人形、結城亜矢子」

## ◆カット進行

キャストは全員同エンゲージで、近距離にトループ「攻性ウィルスα型」が20体×2グループ配置。

敵を全滅させたら戦闘終了。

なお、オンラインアクトなどの場合、敵をエキストラとしてこのカット進行は省略してもよい。

## ◆結末

「カット！ いまから、10分の休憩に入ります」

やはりテロリストは、この映画関係者にいる！

『③ニューロ』の直感がそう囁いた。

用語解説：コンティニューティ

シーンとシーンのつなぎ目のこと。

脚本の一部書き換え

敵は、監督のその特徴を利用して、映画をテロ活動に利用しようとしている。

## ■トループデータ：攻性ウィルスα

ニューロ4レベルトループ

## ▼能力値

理性：7 / 10    感情：6 / 9  
生命：4 / 4    外界：6 / 9  
CS：4 (AR：1)

## ▼戦闘プラン

〈★心理〉〈電腦〉〈SPAM〉の組み合わせで精神攻撃。達成値+3、ダメージ+5。

## ▼技能

電腦                    3♣♠♥♦  
★心理                3♣♠♥♦  
※SPAM              3♣♠♥♦  
※O1フィーリング   3♠♠♥♦

## ▼アウトフィット

・マキノイド……………思：－／電：－  
制御値変更(換算済み)



## ●イベント4：探偵は、女の涙によわい

条件：「●イベント3：コンティニュイティ」の直後  
シーンプレイヤー：『①カブキ』

登場：〈社会：企業、ストリート〉／SR：イエロー

### ◆解説

『①カブキ』の「シーン撮影判定」を行うシーン。

堇（＝ヴァイオレット）の正体を知った『①フェイト』が堇に詰め寄るシーンだ。堇は『①フェイト』への愛と復讐の感情で揺れ動いている。

使用する技能は〈芸術：演技〉か〈交渉〉。RLは判定の達成値をアクトシートの余白に記入すること。

なお、この判定の際に、中村黒子が《ブリーズ！》を使用する。使用させる神業は『①カブキ』の《チャイ》だ。これは「私のことを忘れろ」という堇のセリフ（＝不都合）を否定する、打ち消す目的で使用させるものだ。これは「シーン撮影判定」に対する神業使用として扱われるので、達成値が+21される。

シーン演出、および判定が終わったら描写2へ。

### ◆描写1

「No.251……堇を愛する主人公を突き放すヴァイオレットに対して、『①フェイト』がセリフを繰り返すシーン……スタート！」

カチンコ！！

電光掲示板が光り輝き、小雨が降りしきる夜。そんな表通りから少し離れたストリート。堇……いや、テロリスト、ヴァイオレットの体のラインを強調する堇色のボディスーツに留まっていた雨粒が、太腿へと流れ落ちる。

### ▼セリフ：“ヴァイオレット”

「なぜ、私を追いかけたの！」

「私はテロリストの“ヴァイオレット”、自分の身を隠すただけに、偽りの愛を演じて……貴方を騙していた女よ！」

《ブリーズ！》を使用しながら「真実を知ったのなら、私なんかの事は忘れなさい」

### ◆描写2

中村黒子は、尾上の事件で受けた心の傷を微塵も見せずに、健気に役を演じきっていた。

「カット！ モニターチェックに入ります」

椅子から立ち上がった監督が、興奮した面持ちで、キミに駆け寄ってきた。

### ▼セリフ：ミミ・坂根

「『①カブキ』にしか出来ない、まさにそんな役作りをしてくるなんて、驚きだわ！ そのフェイト役はどうやって作りこんだの？ 詳しく聞かせて！」

（質問に答えたら）「なるほどね～。この作品を観た人は、絶対に貴方に惚れるわ。私が保証するわよ」

「そう言っている傍から、もう貴方に惚れている子がいるみたい。それとも憧れかしら？」（視線を中村黒子に向ける）

### ▼セリフ：中村黒子

「『①カブキ』さん、凄いです。私の手を見てください……今の演技のやり取りで、手が震えてます」

「あ、あの……ランチ、一緒にしていいですか？」（頬を染めながら）

### ◆結末

「別撮り、入ります」

ヴァイオレットの顔が写りこむフェイトの真実を映し出す瞳を、撮影カメラが撮りはじめる。

「なぜ、私を追いかけてきたの！」

## ●イベント5：俳優・尾上博

条件：【足長おじさん】の情報全て入手した

シーンプレイヤー：『②クグツ』

登場：〈社会：企業、メディア〉10／SR：イエロー

### ◆解説

ミミ・坂根が、尾上演と中村黒子との関係、およびテロリストとの関係を『②クグツ』に伝えるシーン。

### ◆描写

映画『探偵は、女の涙によわい』の撮影も順調に進み、夕食を兼ねた大休憩をとる事になった。

「はい、休憩。黒子ちゃんが差し入れとして、手作りクッキーを持ってきたみたいよー」

スタッフや役者が食堂に向かい始める。人が居なくなったのを見計らって、ミミ・坂根はキミに話しかけてきた。

「ちょっと…黒子ちゃんの事なのだけど……」

### ▼セリフ：ミミ・坂根

「黒子ちゃんが女優としてこの業界に入ってきた理由は、聞いている？」

「彼女は幼い頃、産みの母親を亡くしていてね。もしかしたら生きているかもしれない父親に出会いたくて、この業界に入ってきたらしいの……クランクインの日、私、黒子ちゃんから事情を聞いたのよ」

「健気よね、応援したくなる。もう気づいていると思うけど、黒子ちゃんの父親、足長おじさんは尾上演よ」

「以前の作品でその事を尾上さんから聞かされたとき、なぜ名乗り出ないのよ！ って、言ったのよ」

「そしたら、娘を亡くしたと思っていた自分は、復讐のために黒い組織をずっと支援していたと……だからその組織から手が切れるまで、まだ名乗れないって……そう言っていたわ」

### ◆結末

髪の毛を右手でクシャクシャにしながら、ミミ・坂根は、大俳優の指定席だったパイプ椅子を見つめた。

「尾上さんの……特に彼が絶賛される、苦悩に満ちた演技は、大切な人を亡くした体験をしていた……からなんでしょうね」

## ●イベント6：マクガフィン

条件：【悠木亜矢子】の情報を全て入手した  
シーンプレイヤー：『④カゲ』（or『③ニューロ』）  
登場：〈社会：企業、警察〉／SR：イエロー

### ◆解説1

『④カゲ』の[シーン撮影判定]を行うシーン。なお、プレイヤーが3人の場合『④カゲ』がいないので、代わりに『③ニューロ』がシーンプレイヤーとなる。

グレース・間口を演じる結城亜矢子との共演シーンとなる。判定に使用する技能は〈白兵〉〈運動〉〈隠密〉のいずれか。（『③ニューロ』の場合は〈知覚〉〈電脳〉のいずれか）RLは判定の達成値をアクトシートに忘れず記入しておくこと。

演出、および判定が終わったら、描写2へ。

### ◆描写1-a（『④カゲ』）

「No.180……アイアンブルーの手下である、暗殺者エキストラA『④カゲ』が、探偵助手グレース・間口を脅すシーン……スタート！」

数多くの人々が窓口でやり取りをする、警察署内。

ワンピース姿の探偵助手、グレース・間口は、テロの首謀者アイアンブルーの情報を得る為にそこを訪れていた。

だが、人ごみに紛れたカゲを、グレース・間口はまだ見つけられない。

### ◆描写1-b（『③ニューロ』）

「No.180……泳がせいたアイアンブルーの手下相手に、大立ち回りをする探偵助手グレース・間口を、居合わせた情報局長官『③ニューロ』が助けるシーン……スタート！」

騒然とする、警察署内。

探偵助手はメガネを外して、テロ首謀者アイアンブルーの手下相手に大立ち回りをしていた。

しかし人ごみに紛れたカゲの銃口が向けられているのを、グレース・間口は知らない。

### ◆解説2

描写2では、結城亜矢子が脚本に疑問を呈する。情報キーワード【改竄された脚本】を入手させるためのシーンだ。

### ◆描写2

カゲに気づいた探偵助手は、目を吊り上げる！  
「しょんな脅しなんかじゃ……ごめんなさい。セリフを囁んでしまいました。おかしいなあ、いつもはそんなに活口が悪いほうじゃないのに」

そう言って、スタッフによるメイク直しを受けながら、結城亜矢子はクラウドデータ上で常に更新されていく台本データを開き、復唱していく。

### ▼セリフ：結城亜矢子

「ミミさんの現場は好きだけど、台本がコロコロ変わるのだけが難点よね」

「クライマックスのシーンもいつも間にか、『氷の下

に』って言う台詞が追加されていたし……何なのかしら、あのセリフ」

### ◆結末

「あやちゃん、テイク2いくわね！ それと目力は、とても良かったわ！ 自信を持って」

監督の熱のこもった演技指導を受けながら、テイク2の撮影に取りかかる。

【改竄された脚本】の情報キーワードをプレイヤーに渡してシーンエンド。

## ●イベント7：フラッシュ・バック

条件：【監視カメラの映像②】の情報を入手した  
シーンプレイヤー：『③ニューロ』

登場：〈社会：警察、企業〉／SR：イエロー

### ◆解説

事件現場に設置されていた監視カメラの映像データを再生し、事件の真相を明らかにするシーン。

映像はSSSにより事故に見せかけて改ざんされているが、これは既に情報【監視カメラの映像②】を得ることで復元されている。映っているのは、尾上を殺した犯人が中村黒子であるということを示す映像だ。

しかし、実はこの映像には、より巧妙な映像改ざんが潜んでいる。描写1～2を読み上げたのち、プレイヤーには「この映像には『完全偽装』によりなんらかの偽装がされている」ということを伝えること。(\*)

これを『電脳神』などで打ち消した場合、事件の黒幕の存在が明らかになる。描写3へ進むこと。

### ◆描写1

映像データが再生される。

“尾上演”と書かれたプレートが掲げられている楽屋の前。そこに写っていたのは尾上と、そして——中村黒子だった。

「尾上さん……違う、お、お父さんだよ……？」

「……キミは、何を言っているんだい？」

尾上は、至極自然に返答をした。それは熟練の俳優だからこそのきた“演技”だ。しかし、少女は何かを探りだそうと……目に力を込める。

### ▼セリフ：中村黒子と尾上演

「私は、確信したんです……足長がおじさんは、父は、尾上さんだと……」

「どうして、そのように感じたのだい？」

「この前、顔も知らないお父さんのことを、監督に相談したんです。そしたら、監督が一瞬、私の背の向こう側にいる、尾上さんを見たんです」

「見たって、キミ……背中に目でもあるのかい？」

「尾上さんは素晴らしい役者です。たとえ見えていなくても、背中越しだとしても、尾上さんのオーラに気づかないカブキはいません」

「……もし、父だとしたら？」

### 用語解説：マクガフィン

物語を構成する上で、登場人物への動機付けや話を進めるために用いられる、そのジャンルでは定番化・陳腐化された仕掛けのこと。

例えば、泥棒が狙う宝石やスパイが狙う重要書類など。

### 用語解説：フラッシュ・バック

シーンに回想場面や違う場所のシーンを唐突に挿入して映画のリズムを変える編集技法、そうする事で観客の注意を促す効果を得る。

### 《完全偽装》の使用者

暴走プログラムAIだ。

「——どうして、お母さんが苦しんでいる時に、助けに来てくれなかったの!？」

### ◆描写2

緊迫した空気が流れる。

しかし、キミは異変を感じる。顔認識で自動追尾するカメラが、映像を拡大表示させずに中村黒子と尾上のやり取りを画面左側に表示している……？

### ◆描写3

(※《電脳神》を使用した)

監視カメラの映像の右側、中村黒子の背後に、助監の姿が表示される！

「すべては氷の下に」

その言葉を耳にした少女は、ふいに無機質な瞳になる。

「尾上さん、貴方の復讐は正しかった。だが、娘かわいさに、同じ志を抱く我々を裏切ろうとした、貴方が悪いのですよ」

感情が欠落した表情をした中村黒子は、尋常でない力で尾上の首を掴み、怒から放り投げた。

### ◆結末

事件の黒幕、助監……“灰色の”アドはAIに、監視カメラの映像記録と中村黒子の記憶から、今起きた出来事の消去を命じる。(ここで《完全偽装》<sup>アンタッチャブル</sup>が使用されている。)

「さて、N◎VAを混乱に落とし入れる、最高のドキュメンタリー作品を生み出すため、映画の撮影を始めようじゃないか」

プレイヤーに【“灰色の”アド】の情報キーワードを渡してシーン終了。

## ●イベント8：ハードボイルド

条件：「●イベント7：フラッシュ・バック」の直後  
シーンプレイヤー：「①カブキ」

登場：(社会：企業、社交界) / SR：イエロー

### ◆解説

助監(“灰色の”アド)が神業<sup>アンタッチャブル</sup>《不可触》を使用し、事件を偽りの収束へ導こうとするシーン。この《不可触》の効果は、中村黒子が尾上を殺した際に、彼女が「操られていた」という事実の隠蔽だ。黒子はこの神業により、事件当時の記憶を「自分の意志で父を殺した」という認識で取り戻す。

この《不可触》を《チャイ》<sup>アンタッチャブル</sup>で打ち消したならば、同時にアドの関与が証明され、事件の真実を白日の下に晒すことが出来る。(\*)

### ◆描写1

悪徳の街を牛耳るエグゼグやカリスマ、それに群がるマネキンが集まる社交界。ドレス姿に仮面をつけたヴァイオレットが、そこに紛れ込んでいるシーンの撮影中。

急に、助監が監督に話しかけ、撮影を中断させる。「あの。私、尾上さんを殺した犯人が分かってしまったんですけど」

### ▼セリフ：アドと中村黒子

「犯人は、中村黒子さん、貴女だ！ 尾上さんの死の直前、貴女は彼に会いに行きましたね？ その時間、あなたが楽屋を訪ねた記録が残っていました。もしかしたら、誰かによって記憶操作されて、貴女は忘れていたかもしれない……でも、もう思い出しているでしょう？ 貴女自身が、手をかけて犯した罪を！」  
「なんで……忘れていたの？ 尾上さん、違う……お父さんに会いに行つて、そして問い詰めて……」(涙を流す)

「これで、事件は解決です！」

### ◆描写2

(※《不可触》を打ち消された)

「参りましたね……それならば、第二稿を使用するまでです」

### ◆結末

撮影用カメラの表示ディスプレイに、大粒の涙を流す少女と、まるで本物の探偵のような瞳をした、『①カブキ』の姿が映し出されている。

「『①カブキ』さん。自分の意思じゃなかったけど、私はこの手でお父さんを殺してしまった。なのに、悲しい気持ちでいっぱいはずなのに……これで殺人者役の演技ができると思ってしまっているカブキが、私の中にいるんです。私はどう、罪滅ぼしをすれば……」

黒子の言葉(\*)に返答を返したらシーン終了。

### 《チャイ》の使用想定

《不可触》を打ち消させることで、疑似的に《真実》と同じ効果を得させる意図がある。

探偵役のカブキが実際に探偵になりきるシーン、ということだ。

### 黒子の言葉

彼女のキースタイルがカブキであることを象徴するセリフだ。

なお、故・尾上の演技も、実際に愛する人を失った経験が滲み出ている、とミミ・坂根のセリフにある。

## ●イベント9：アクトトレーラー

条件：「●イベント8：ハードボイルド」の直後  
シーンプレイヤー：「②クグツ」

登場：全員自動登場

### ◆解説

“灰色”のアドが<sup>スキャンボーズ</sup>《暴露》を使用。撮影された映画のシーンを編集した「トレーラー」(\*)を、N◎VAのすべての映像媒体に放送する。本シナリオのアクトトレーラーを読み上げること。

なお、このトレーラーにはキーワード「すべては氷の下に」が含まれている。このキーワードがそのままオンエアされると、N◎VA中で暴徒がテロを起こしてしまう。

《<sup>アクトトレーラー</sup>完全偽装》を使用すると、アクトトレーラーの一部の文章を消すことができる。(全員の配布レコードシートに記載されているトレーラーに打ち消し線を引きくといひだろう)これにより、N◎VAで放送されるCMからも該当の演出が消え、テロは防がれる。

### ◆描写

すべての映画館、テレビCMに映像が流れる。

制作費、1万プラチナム。N◎VA軍全面協力。  
至上のキャストと最高のスタッフが織り成す感動巨編！

美しい女性はシーツで胸を隠しながら、  
横たわるフェイトの視線から目を背ける。  
片頬にひと筋の涙を流しながら……  
「さようなら。恋人ごっこはもう終わりのよ。」

背徳の街……その夜景を眼下に見据えながら、  
女は復讐を、男は呪いの言刃を宣言する。  
「さあ、はじめよう。すべては氷の下に……」  
ひとつの殺人事件が引き金となって、N◎VA軍までも巻き込んだ、最悪の一日が幕を掲げる！

フェイトは立ち向かう。真実の笑顔の為に……。

映画『探偵は、女の涙によわい』Coming Soon

### ◆結末

「まさかここまで、貴方がアドリブに強いとは思いませんでしたよ。これも、神の試練なのですね」

助監、いや、テロリスト“灰色”のアドは、両手を広げて撮影場の照明が光り輝く天を崇める。

クライマックスへ。

## ■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

- ・中村黒子
- ・ミミ・坂根
- ・尾上演
- ・映画「探偵は、女の涙によわい」

### ◆中村黒子

〈社会：メディア、社交界〉〈コネ：中村黒子〉

- 10 作品の役に合わせて様々な義体を操る若手女優。人格データを使用せずに多彩な役を演じ分けることができ、人に共感を与える天才。
- 12 IANUSの性能を上げるテラウェア社の製品【スペシャライズ】のCMで有名になった。
- 14 【映画「探偵は、女の涙によわい」】では、主人公の恋人役で、恋と復讐に揺れるテロリストという難役をこなす。
- 15 母親をN◎VA軍のクーデター事件で亡くす。その後は孤児として苦勞し、俳優であるという事以外は顔も素性も知らない父親を探すために銀幕デビューしたらしい。
- 18 援助してくれる【足長おじさん】がおり、【悠木亜矢子】と楽屋でお喋りしていたとき、いつかお礼を言いたいと言っていた。

### ◆ミミ・坂根

〈社会：メディア、社交界〉〈コネ：ミミ・坂根〉

- 10 今回撮影している【映画「探偵は、女の涙によわい」】の女監督。去年のN◎VAアカデミー賞“撮影賞”および“新人監督賞”を受賞している。女優からの人気が高い。
- 12 インスピレーションを大切にし、俳優の能力を最大限に発揮できるように、その場でよく脚本の変更をする。四六時中映画撮影のことに没頭して情熱を注ぎ、俳優の長所を的確に褒める。
- 14 映画撮影中に【人身事故】が起き、製作中止の危機に貧したが、熱意で撮影を続行させた。
- 16 中村黒子の【足長おじさん】の正体や、支援の動機を知っているらしい。

### ◆<sup>おのゝ・ひろし</sup>尾上演

〈社会：メディア、社交界〉〈コネ：ミミ・坂根〉

- 10 災厄前から続く俳優一家の末裔であり、ベテランの名役者。代表作品は「ニューロ血風録」「日本 Detonation 沈没」などがある。家同士が<sup>いいなすけ</sup>決めた許婚と結婚している。
- 12 映画の撮影中で起きた【人身事故】によって亡くなった。
- 15 テロリスト【氷の静謐】を支援しているという

### トレーラー

本来、トレーラーとは映画の予告・宣伝映像のことだ。アクトトレーラーが、劇中で本来の姿で放送される、という面白みがこのシーンにはある。



噂がある。

- 18 親が決めた許婚より、本当に愛した女性がいた。生まれただけの幼子とその女性を、N◎V A 軍人が引き起こしたクーデター事件によって亡くしている。

### ◆映画「探偵は、女の涙によわい」

〈社会：メディア、ウェブ〉

〈コネ：中村黒子、ミミ・坂根、悠木垂矢子〉

- 10 主人公の探偵役は『①カブキ』。ヒロインの輩とテロリスト・ヴァイオレットを【中村黒子】。テロリスト親玉アイアンブローを【尾上演】。そして探偵助手役を【悠木垂矢子】が演じている話題作。
- 12 配給はCMEで、監督は【ミミ・坂根】。
- 14 映画の撮影をする〔シーン撮影判定〕がシナリオ中に発生する。p7の〔シーン撮影判定〕のルールをプレイヤーに説明すること。

### ◆人身事故

〈社会：警察、企業〉〈コネ：『②クグツ』〉

- 10 被害者は大物俳優【尾上演】。SSS が捜査を担当し、メディアには公表されていない。
- 12 千早重工後方処理課の『②クグツ』が、出演者の護衛任務を行うため、エキストラとして参加する事になった。
- 14 事故現場に設置されていた監視カメラの映像は、SSS により押収され、事故に見せかけて改ざんされている。SSS からデータを回収し、復元できれば事件の真相を掴むことが出来るだろう。→【監視カメラの映像①】

### ◆監視カメラの映像①

〈隠密〉〈交渉〉〈圧力〉〈社会：警察、企業〉

- 16 SSS から監視カメラの映像データを入手した。  
→【監視カメラの映像②】

### ◆監視カメラの映像②

〈電腦〉

- 13 改ざんされた映像データの復元に成功した。

### ◆足長おじさん

〈社会：企業〉〈コネ：ミミ・坂根〉

- 16 監督【ミミ・坂根】は、足長おじさんの正体を知っている。
- 18 【尾上演】である。死んだと思われていた娘が生き延びており、それが【中村黒子】であることを知り、名前を伏せて彼女を支援していた。

### ◆氷の静謐

〈社会：警察、軍事〉〈コネ：和泉紗季、『③ニューロ』〉

- 14 映画を利用したテロ活動を行うらしい。
- 16 N◎V A 軍人『③ニューロ』が彼らのテロについて調査している。
- 18 正体不明のメディア・テロリスト、“灰の”アドが関与している。

### ◆スペシャライズ

〈社会：企業、テクノロジー〉〈コネ：中村黒子〉

- 10 CMキャラクターに【中村黒子】が起用されてから、売上げが好調である。
- 14 テラウェア社のCM契約の関係上、期間限定で【中村黒子】もスペシャライズを装着している。
- 21 スペシャライズを装備すると、IANUS にバックドア設置される違法【ウィルス】プログラムが確認されている。

### ◆ウィルス

〈社会：テクノロジー〉〈電腦〉〈コネ：和泉紗季〉

- 18 【氷の静謐】が作成した、暴走プログラム AI（敵ゲスト）が、他者の体に乗っ取り遠隔操作するためのウィルス。
- 【スペシャライズ】装着者が音声もしくは視覚によって何らかのキーワードを認識すると、周囲の人に危害を加える暴走状態（精神戦ダメージ 15）となる。これは《電 脳 神》の効果だ。アクトルールにより、この暴走状態は一度発動すると解除不可能とする。阻止するにはキーワードを認識させないようにするしかない。

### ◆悠木垂矢子

〈社会：メディア、社交界〉〈コネ：悠木垂矢子〉

- 10 元アイドルの悠木あや本人である。
- 12 当初はテロリスト役だったが、どこからかの圧力によって、探偵助手役に変更された。
- 14 どこからか匿名を受けて、影ながら悠木垂矢子を守っている『④カゲ』というエキストラ役者がいる。（\* PL が3人の場合はこの項目は削除）

### ◆改竄された脚本

〈社会：メディア、企業〉〈コネ：稲垣公平〉

- 15 本来は探偵役とベットのシーンを行うヒロイン役は【悠木垂矢子】が演じる予定だったが、稲垣司政官の圧力により、探偵助手役として決まっていた【中村黒子】と差し替えられている。
- 18 何者かが、脚本に「すべては氷の下に……」という台詞を追加した。テロリスト“灰の”アドが、映画を利用したテロ活動を行うときのキーワードである。

## ◆ “灰色の” アド

〈社会：メディア、警察〉〈コネ：和泉紗季〉

- 16 助監として映画撮影に参加している。N◎VAという街に復讐心を抱く者の弱みを探し出し、事件に協力させる氷の静謐のエージェント。過去に行ったテロには“映像ジャックによる、N◎VA 軍人の公開処刑”などがあり、日本とN◎VA 行政府に対しての復讐心が人一倍強い。神業《タイムリー》を使用して、【李拳骨】を協力者として配下に置いている。

◆ <sup>レイ・ザンゴフ</sup> 李拳骨

〈社会：メディア、警察〉〈コネ：ミミ・坂根〉

- 14 ニューロ・ジークンドーの使い手（チャクラ◎）。色々な演技データが入力されてたマスケンヴァル（人格カード）を使用するスタント俳優。ゆえに幅広い演技を行えるが、個性がないために評価されず、エキストラやスタントの仕事に甘んじている。そんなN◎VA映画界への嫉妬を、アドに利用されている。



## 劇中劇『探偵は、女の涙によわい』

## ヴァイオレット（中村黒子）…

18 歳女性。テロリストという身分を隠すために、壘という名前で『①フェイト』と偽装恋愛をしていたヴァイオレットは、彼との偽りの日々の中で次第に彼を本気で愛してしまうようになる。だが、弟を奪った権力者への復讐が彼女の生きがいであり、武闘派テロリスト・アイアンブルーの部下となった理由でもあった。

## アイアンブルー（尾上演）…

バワードスーツを着込んだ、ニューロ・ジークンドーの達人である40歳。背徳にまみれた街の浄化を望む狂信者であり、武闘派テロリストの首謀者。

## グレース・間口（悠木亜矢子）…

探偵に救われたのを切欠に、おしかけて来た女性探偵助手。大学院を優秀な成績で出ており、頭脳明晰だが、やや杓子定規な考え方をする25歳。メガネ女子。

## クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

## ●クライマックス1：真教浄化派

シーンプレイヤー：全員

## ◆解説

事件の黒幕と対峙するシーン。戦闘を行う。

## ◆描写

撮影用のARプロジェクターから、地面に映し出された、白い鳩が飛び立つ。

「ここまでアドリブに強いとは思いませんでした」

ゆっくりと助監マークのキャップを外して、灰色の長い髪をあらわにした。

## ▼セリフ：「灰の」アド

「私のあらすじでは……尾上演の事故でこの映画の注目度を上げ、暴走テロを発動させるキーワードを含む映画告知トレーラーを放映。そして、この作品を見た市民が、背徳の都市……N◎VAを浄化する神の信徒となる……はずだったのです」

「この作品は、以前に制作した『映像ジャックによるN◎VA軍人の公開処刑』を超えるはずだった！ いや、まだ諦めません。あなた方をねじ伏せて、再度、映画告知をさせていただきましょう」

## ▼セリフ：李拳骨

「私の演技を認めない批評家や監督たちよりも、この底辺の役者達のために映画界を変えようとするアドさんに、私は協力する！」

## ▼セリフ：暴走プログラムA

「暴走プログラム起動！ ウィルスβ散布！」

## ◆カット進行

キャストは全員で一つのエンゲージ。

そこから近距離の1エンゲージに「李拳骨」、中距離の1エンゲージに「灰のアド」「暴走プログラムA」「ウィルスβ型トループ20人×1体（PL3名の場合は配置しない）」。

敵ゲストをすべて倒したら、結末へ。

## ◆結末

「灰の」アドはシャツを赤く染めながら、『①カブキ』問いかけた。

「聞いていいですか？ 探偵でもないカブキが、どうして真実を探そうと思ったのです？」

## ●クライマックス2：オールアップ

シーンプレイヤー：全員※

## ◆解説

最後の「シーン撮影判定」を行う。シーンプレイヤーは「全員」、つまり判定は全キャストが1回ずつ行うことが出来る。ここで忘れずp7に記載されているSPSの条件を伝えること。

判定に使用する技能は、〈芸術：演技〉や〈交渉〉など。キャストの演出に合わせて使用できる判定技能を増やしてよい。(1)

## ◆描写

事件は解決した。さあ、あとは映画を完成させるだけだ！ 監督の指示のもと、スタッフや役者が一丸となって、撮影を開始する。

ARを駆使して刻々と変わる舞台情景。極点のオーロラを投影する電波塔での対決シーン。寂れたストリートに構えるピエロ姿の情報屋とのやりとり。軍による外出禁止令発動シーンなどなど。

決意を秘めた瞳をした中村黒子が、声を上げる。「みなさん。全身全霊の、体当たりの演技で、お願いします。私も、お父さんのように、観客の心に残る演技をしたいです！」

## ▼セリフ：ミニ・坂根（キャストたちの演技に対し）

「すてきな台詞。イイ声……惚れるじゃない」

「その仕草、魅入ってしまうわ。最高よ」

「すごい演出ね。映画の世界観がとても壮大になるのが、肌で感じるわ」

「格好いいわ……素敵」

## ◆結末

全ての撮影が終わり、スタッフから拍手が沸き起こる。『①カブキ』は、情熱に満ちた瞳をした監督と目が合う。

「オールアップよ、お疲れ様」

彼女はキミと黒子に花束を手渡す。より大きな拍手がスタジオを包み込んだ。

## 最後の【シーン撮影判定】

キャストの神業が残っているなら、ここで積極的に使用してもらおう。使用回数に制限などはもちろんない。

# エンディングフェイズ

## ENDING PHASE

一部のキャストの想定エンディングのみ記載している。それ以外のキャストのエンディングに関しては適宜ふさわしい描写を行うこと。

### ●エンディング1：レッドカーペット

シーンプレイヤー：『②クグツ』

#### ◆解説

『②クグツ』のエンディングシーン。

#### ◆描写

N◎VAアカデミー賞受賞式。

指定されている高級車の降り口から、会場までの長い距離に敷かれた、レッドカーペット。その赤いストリートの周りには、映画ファンが集まり、熱狂的な声援を送り続けている。

そんな独特な雰囲気の中、数多くの有名俳優や監督が、数多くのトーキー達によるフラッシュやインタビューを受けながら、もしくは手を振りサインをしながら、自信に満ちたオーラを放ちながら歩んでいる。

会場警護として来ていたキミに、監督ミミ・坂根が話しかけてきた。

#### ▼セリフ：ミミ・坂根

「映画を最後まで撮影させてくれて、ありがとう。スタッフ全員を代表して、お礼を言うわ」  
「ところで、さっそく次の映画作品に取り掛かろうと思っているんだけど……また、エキストラ出演してみない？」

#### ◆結末

“興行収益10万プラチナム” “10週連続チャート1位” そんな記録を、現在進行形で打ち立てている作品を引きさげ、ミミ・坂根は、N◎VAアカデミー賞受賞式へと入っていった。

このシーンの終わりに、[シーン撮影判定]の合計達成値と、結果を発表すること。

### ●エンディング2：N◎VAアカデミー賞

シーンプレイヤー：『①カブキ』

#### ◆解説

『①カブキ』のエンディングシーン。

SPSを達成している場合に発生するエンディング。達成度合いに合わせて演出は適宜変えること。

#### ◆描写

映画界を牽引してきたカブキたちと、次世代を担う新人カブキたちの競演の場に設置されたテーブル席に、キミと中村黒子は並んで座る。  
「レディース&ジェントルマン」

スポットライトとともに、祭りの幕は上がり、ノミネート作品が紹介される。そのたびに、招待客や、リアルタイム配信を見ている映画ファンをも巻き込んだ興奮と緊張が熱を帯びていくのが、肌で感じる。

これこそが……映画産業界最大のイベント「N◎VA映画祭」なのである。

#### ▼セリフ：プレゼンター

「本年度N◎VA映画祭、最優秀アカデミー作品大賞は……『探偵は、女の涙によわい』が選ばれました。おめでとうございます！」

「助演賞は……中村黒子さん！」

「そして主演賞は……『①カブキ』さん！」

「おめでとうございます。さっとく舞台上に登壇していただいた受賞者のみなさんから、コメントを頂きましょう」

#### ▼セリフ：中村黒子

「こんな栄えある賞を受賞できるなんて、とても嬉しいです。この喜びを、亡くなった母と……大先輩の尾上演さんに伝えたいです。」

#### ◆結末

涙を堪える様に、スポットライトを見上げた中村黒子は、緊張に震える手でキミの掌を握ってきた。

「お父さん、見てくれているかな？ 映画賞、取ったよ」

興奮に包まれた観客が一堂に立ち上がり、拍手喝采が鳴り響き、その映像が世界各国に配信される。

映画「探偵は、女の涙によわい」は、今年度製作された、すべてのアウターエッジ・ムービーの頂点に輝いたのだ！

### ●エンディング3：クレジット

登場：不可

#### ◆描写

映画祭の特別上映。

探偵の台詞が、映画を最後を飾る。画面が暗転し、切ないロックブルースを感じさせる、メロディの新曲「after Tear」が流れ始める。

ブラックアウトした大画面には、「故・尾上演に捧ぐ」の文字が浮かび上がる。そして流れ始めるスタッフクレジット

『①フェイト』……『①カブキ』

董（ヴァイオレット）……中村黒子

アイアンブルー……尾上演

探偵助手……悠木亜矢子

エキストラ……N◎VA市民のみなさん

トーキョーN◎VA治安維持軍のみなさん



撮影協力……N○V A 行政府

監督……ミミ・坂根

トーキョーN○V A THE AXLERATION

『探偵は、女の涙によわい』

xyz..

### ◆結末

これにて本アクトは終了となる。

## ミミ・坂根に学ぶルーリング

本シナリオは映画撮影をテーマとしたシナリオだ。よく、『N○V A』のプレイ風景は映画撮影に例えられる。つまり、このシナリオは映画撮影の中で映画撮影をする、という二重構造のシナリオなのだ。

シナリオ中には、シナリオ作者が得てきた、普段から実践しているプレイングテクニックのエッセンスが様々な形で散りばめられている。特に重要なのは監督であるミミ・坂根が『シーン撮影判定』中にキャストに投げかけるセリフや演出である。

彼女はキャストの演出を「よく見て」「よく褒め」「それを活かす形で脚本を書き換える」という行動を徹底してとっている。これこそが、プレイヤーのモチベーションを上げ、良さを引き出し、アクトを最高の形で成功に導く秘訣である、というのがこのシナリオの根底に流れる哲学だ。

ぜひとも、このシナリオを使ったアクトでは、ミミ・坂根式のルーリング術を実践してみたい。そして手応えを感じたならば、その手法を普段のアクトにも活かしてみてくれ。

## ■暴走プログラムA I

ニューロ=ニューロ○、クグツ●

## ▼設定

IANUSのカスタマイズ（スペシャル）を行う際にバックドアを作成し、ウィルスプログラムを転送し、キーワードにより装着者を暴走行為に駆り立てるプログラムA I。

倒すとそれ以降はウィルスの効果も発動しなくなり、バックドアも自然消滅する。外見は真教シンボル。

## ▼神業

脳神■ 脳神□ 完全偽装■

## ▼能力値

理性：9 / 16 感情：4 / 14  
生命：3 / 6 外界：5 / 12  
CS：11 (AR：1)

## ▼技能

脳 4♣♥♦♦  
★心理 4♣♥♦♦  
※忠誠 4♣♥♦♦  
※バベット 1♡♠♥◇  
※SPAM 5♣♥♦♦  
※パワーサージ 4♣♥♦♦  
※ターボブースト 4♣♥♦♦

## ▼アウトフィット

・ピアノフォルテ ..... 隠：13 / 電：22  
タップ。常に【CS】+3（換算済み）  
・クロッククラック ..... 隠：15 / 電：15  
〈電脳〉判定の達成値を常に+1  
・マキノイド ..... 隠：- / 電：-  
制御値変更（換算済み）

※防 (S/P/I) : 0 / 0 / 0

## ▼戦闘プラン

セットアップで〈ターボブースト〉を使用。ゲスト1人の【CS】を+1【判定に使用したカード数値】する。  
メジャーでは、〈★心理〉〈電脳〉〈SPAM〉の判定。達成値+1、ダメージ+7の精神攻撃。ダメージ適用の直前に〈パワーサージ〉で判定し、ダメージを肉体ダメージに変換する。  
自身が肉体・精神ダメージを受けたら〈忠誠〉を使用して【判定に使用したカードの数字】点軽減。  
制御判定に失敗したときは、バベットで判定し、成功させる。（1シーン1回）

## ■“灰の”アド

タタラ○、トーカー●、レッガー

## ▼設定

「シーン 14、台本の通りに死んでもらおう」

N◎VAに対して復讐心を持つ者の弱みを探し出し、協力させるのが得意な真教浄化派エージェント。

外見は30代半ば。長い灰色の髪をキャップで隠し、ニューロTシャツを着ている。

少年時代、市民ランクの格差によって冤罪を着させられてから、日本とN◎VA行政政府に対して復讐を誓う。

## ▼神業

暴露■ 不可触■ タイムリー■

## ▼能力値

理性：7 / 14 感情：6 / 12  
生命：7 / 10 外界：4 / 12  
CS：8 (AR：1)

## ▼技能

自我 2♣♥♦◇  
★心理 4♣♥♦♦  
製作：台本 4♣♥♦♦  
※名解説 3♡♠♥◇  
※威圧 5♣♥♦♦  
※弱点看破 5♣♥♦♦  
※口封じ 4♣♥♦♦  
※タイムマジック 3♣♥♦◇

## ▼アウトフィット

・憑狗 ..... 隠：18 / 電：-  
マイナーで使用。【理性】【感情】【生命】の能力値を+3する。  
・パッドネーム ..... 隠：10 / 電：-  
・アサクサシャツ ..... 隠：- / 電：-

※防 (S/P/I) : 0 / 0 / 0

## ▼戦闘プラン

セットアップで〈弱点看破〉を使用し、ゲスト全体が与える肉体・精神ダメージを+10する。  
メインプロセスでは〈★心理〉〈※タイムマジック〉〈※口封じ〉〈威圧〉で精神攻撃。ダメージ+7、リアクションに〈交渉〉の組み合わせ不可。対象：範囲。〈※タイムマジック〉で範囲攻撃に出来るのは3回まで。  
他の敵ゲスト攻撃時の達成値が足りない場合は、〈名解説〉を使用+2。3回まで。

## ■“覆面俳優”李 拳骨

チャクラ○●、カタナ=カタナ

## ▼設定

「俺の演技を認めない奴らを許さない！ アチャー！」

色々な演技データが入力されている人格カードを使用するスタント俳優。ゆえに幅広いマルチ演技を行えるが、個性がないために評価されず、エキストラやスタントの仕事に甘んじている。そんなN◎VA映画界への嫉妬をアドに利用されている。外見は20代、黒ジャージを着る爽やかな短髪青年。

## ▼神業

黄泉還り□ 死の舞踏□□

## ▼能力値

理性：6 / 13 感情：2 / 13  
生命：9 / 15 外界：4 / 11  
CS：8 (AR：1)

## ▼技能

芸術：アクション 4♣♥♦♦  
★白兵 8♣♥♦♦  
★回避 2♣♥♦◇  
※手刀 5♣♥♦♦  
※鬼の爪 4♣♥♦♦  
※縮地 4♣♥♦♦  
※鉄身 2♣♥♦◇  
※ボディウォール 2♣♥♦◇

## ▼アウトフィット

・マスケンヴァル ..... 隠：18 / 電：15

※防 (S/P/I) : 0 / 0 / 0

## ▼戦闘プラン

1回のみ、セットアップで〈縮地〉を使用。そのカット中の【CS】+9。  
メジャーでは、〈芸術：アクション〉〈★白兵〉〈手刀〉〈鬼の爪〉で白兵攻撃。攻撃力は[S+10]、[ダメージ軽減技能]の使用不可。  
“灰の”アドがダメージを受けた場合、1カットに2回まで〈※ボディウォール〉を使用し、ダメージを肩代わりする。〈鉄身〉で判定して、【判定に使用したカードの数字】点分、ダメージを軽減させる。

## ■トループ：攻性ウィルスβ

マネキン4レベルトループ

## ▼能力値

理性：7 / 10 感情：6 / 9  
生命：4 / 4 外界：6 / 9  
CS：4 (AR：1)

## ▼技能

電脳 3♣♥♦♦  
※サポート 4♣♥♦♦  
※ツェノンの逆理 2♣♥♦◇

## ▼アウトフィット

・マキノイド ..... 隠：- / 電：-  
制御値変更（換算済み）

※防 (S/P/I) : 0 / 0 / 0

## ▼戦闘プラン

〈電脳〉〈サポート〉（※目標値10）で、1体のゲストに達成値+2のメインプロセスを即座に行わせる。  
あるいは【AR】を消費するが、キャストの行動の達成値を〈ツェノンの逆理〉で-6する。

## ■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。

『トーキョーN◎VA THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

## ■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。

ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。

シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。

ホームページ (<http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/>) の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。

(このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります)

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

- ① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
- ② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
- ③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION 投稿型シナリオ共有サイト

# NeuroCrowD

---

## 投稿シナリオ No.015 『探偵は、女の涙によわい』

発行日：2015.6.11

執筆（著作権者） 瀬戸俊雄

イラスト なし

企画 ニューロ／CD製作委員会

DTP まだら牛

素材 Z-design

連絡用メールアドレス：dapple\_ox@gmail.com

サイトURL：<http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/>